

日本医労連

参加費
無料

2.6 夜勤シンポジウム

～「夜勤は有害業務、保護と規制はあたりまえ」を世論に～

開催趣旨

「夜勤・交替制勤務」の安全と健康への有害性は、慢性疲労・睡眠障害、循環器系障害、過労死、長期的には発がん性(国際研究機関が指摘)などが科学的にも明らかにされています。昨年4月に起きた関越道高速バス事故は46名が死傷する大惨事になりました。背景に、運転手の夜勤・長時間労働や不十分な勤務間隔、1人勤務などの過酷な労働環境があります。夜勤・交替制労働者の保護と夜勤規制は急務です。

夜勤・交替制労働が、安全・安心を脅かしている実態を社会的に明らかにし、夜勤労働の抜本的な改善をめざす運動の一環として夜勤シンポジウムを開催します。

日時

2013年
2月6日(水)
13:00～17:00

12:00 受付開始
13:00 開会
基調発言
パネリスト発言
フロアー発言
まとめ
17:00 閉会

会場

星陵会館ホール

東京都千代田区永田町2-16-2
TEL 03(3581)5650



コーディネーター



佐々木 司氏

(ささき つかさ)
公益財団法人 労働科学研究所
慢性疲労研究センター研究部
疲労・労働生活研究グループ

公益財団法人労働科学研究所慢性疲労研究センター長。1993年千葉大学大学院修了(理博)。1996年サーカディアン生理学研究所協力研究員、2000年カロリンスカ研究所客員研究員を経て、2004年から現職。専門は労働者の疲労と睡眠。

パネリスト

森本敦子(もりもと あつこ)

オーストラリアに20年以上在住。フリンダース大学のソーシャルワークの修士課程を修了。リハビリテーション・コンサルタントとして労災受給者の傷病をはじめ精神障害を含めたマネジメントと職場復帰支援に従事。現在、日本に帰国。キネシオロジーという代替療法のセラピーを開業。

小林吟子(こばやし ぎんこ)

1985年長野県厚生連佐久総合病院に看護師として就職。精神病棟、脳外科病棟、老健施設等の勤務を経験。24年間現場で勤め、2011年より労働組合の専従となる。現在、全厚労書記次長として日本医労連の看護対策委員を担当。

菊池和彦(きくち かずひこ)

1983年より自交総連本部に書記として勤務。1995年自交総連専従中央執行委員。2002年自交総連書記次長。現在、タクシー、観光バス労働者の労働実態等の調査、分析、政策のとりまとめなどを行う。

白石一美(しらいし かずみ)

元郵政産業労働組合中央執行委員。東京中央郵便局に入局以来、郵便内務労働者として夜間労働に従事。深夜勤廃止を求める裁判では事務局局長として中心的な役割を担う。